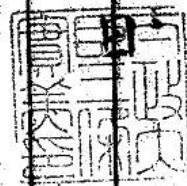


伺之趣聞届候事

明治八年五月五



甲第三拾号

農學教師雇入ノ義伺

當使假學校生徒追々進歩致シ専門學科  
 ニ就カシムヘキモノ夥多有之該員成業ノ上ハ  
 專ラ開拓ニ從事セルルノ旨趣ニ付今般札幌表  
 へ農學校建設ノ都合ニ俟処右教授ノ為ノ  
 米国人三名（兼務ノ都合ヨリ四名）別記約条案ノ通雇入俟  
 梯仕度給料ノ義ハ當使定額金ノ内ヲ以給  
 与俟条至急御裁允相成度此段相同俟

也

明治八年三月廿九日

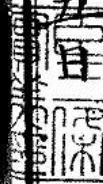
開拓長官黒田清隆

太政大臣三條實美殿

伺之趣聞届候條結約之上可届  
出候尤條約書之儀ハ外務省へ可  
打合事

但大蔵省へ其使ヨリ通達可致事

明治八年五月十五日



別記

博士三名

但俸給歳額凡壹万三千弗トス庶務ノ都

合ニヨリ更ニ一名ヲ増スヲアルヘシ

右三名或ハ四名ニテ左之學科ヲ教授セシム

農學 アグリカルチエル

化學 ケミストリ

獸醫學 ヴエテリナレ、サイエンス

人身窮理 ヒウマンレナチジヨロジ

動物學 Зоология

開封

物理學 ナチュラリフキロソフキ

數學 マゼマテツクス

画學 ドロキング

本草學 ボクネー

重學 ノカニツクス

土木學 シダキル、エンジニアリング

以上

副校長  
條約案

明治八年第 月 日 二 居

留セル 国人 氏ト日本政府開拓

長官黒田清隆ニ代リ開拓幹事調所

廣文ト取結ハル約書元ノ如シ

氏ハ左ノ條々ヲ行フヘキヲ同意

シ之ヲ約諾ス取テ

第一條

明治八年 月 日 身ヲ西洋一千八百七十五年 月

日ヨリニケ年間日本北海道札幌學校ニ於テ農

業及化學博士兼副校長及普通英語英數學

教師トシテ用招使ニ奉職シ期限中不絶日本  
政府ニ仕ヘ用招使ノ官負ヨリ達スル諸命令ヲ  
遵奉スヘキ事

第二條

校長ノ定ムル處ノ學則若ク教授ノ時刻ニ遵ヒ日  
日教授スヘレ日曜日及ヒ將來日本官負ヨリ  
達スル別段休日ノ外ハ日々教授ノ時間六時間  
ノ事

第三條

期限中ハ公然或ハ隱然高法ニ關係致ス間敷事

調所氏ハ左ノ條々ヲ約束ス

第一條

前文ニ揭示セル 氏職務ノ為メ歳俸トシ

テ日本金貨五千圓ト定メ月割ヲ以テ毎月二十  
五日相渡シ候事

但シ時ニ因リ各種ノ貨幣ヲ渡ス時ハ金貨ヲ  
元ニ立テ相渡シ可申事

雇中ハ 氏住居ノ為適宜ノ居室ヲ給与ス  
ト雖食料家具小使ノ給料等ハ自辨ノ事

第二條

雙方共都合ニ因リテ雇ヲ止メ又免職セントスル  
キハ三ヶ月ノ前ノ報知ニテ廢約スルヲ得ヘシ然レテ  
本使ヨリ如此レテ此條約ヲ廢スル時ハ解約ノ日  
ヨリ向ニ三ヶ月間ニ相當セル給料ノミヲ  
氏ハ相渡スヘシ又 氏死去ノ節ハ現ニ奉職セ  
レ時間ノ給料ニ可相渡隻事

第三條

満期或ハ三ヶ月前ノ報知ニテ雇ヲ止ムル節ハ但  
約府迄ノ帰程旅費トシテ日本金貨四百五  
十圓 氏ハ可相渡隻事

但レ札幌滞在中満期相成隻節者因所ヨリ  
横濱或ハ東京迄ノ旅費ハ別段可相渡隻事

第四條

氏開拓使官負ノ命ニ因テ札幌府外ニ旅行  
ノ節ハ一已ノ旅費ハ相拂可申事

若シ 氏連綿日數三十日以上病氣ニ付職務  
ヲ行フ能ハサルキハ右時間ハ定タル給料ノ三分ノ  
一以上ハ不相渡 若シ同様ノ原因ヨリシテ右勤  
日ヨリ連綿九十日ニ及フキハ此約書ヲ廢シ右  
六十日間ノ給料ハ三分ノ一ニ相渡スヘキ事

又 氏其職務ヲ怠ル歟或ハ開拓使官負  
等ヨリ違スル命令ヲ違背スルカ又ハ政府ニ不滿  
足ノ事ヲ引起ス時ハ直ニ其職ヲ免シ其日迄ノ  
給料ノミ相渡シ帰程ノ旅費ハ不相渡事

右之條々之ヲ證スル為メ雙方此書ニ手記

調印

開拓幹事調必廣文

他二名  
條約案

明治八年第 月 日

二居

留セル 国人 氏ト日本政

府開拓長官黒田清隆ニ代リ開拓

幹事調所廣文ト取繕ヘル約書迄

ノ如シ

氏ハ左ノ條々ヲ行フヘキヲ

曰意シ之ヲ約語ス即チ

第一條

明治八年 月 日即チ西洋一千八百七十

五年 月 日ヨリ二ヶ年 間日本北海道



札幌學堂ニ於テ 學 學及  
學博士普通英語及數學教師トシ  
テ開拓使ニ奉職期限中不他日本政  
府ニ仕ヘ開拓使ノ官負及副校長ヨリ  
達スル諸命令ヲ遵奉スヘキ事

第二條

校長ノ定ムル處ノ學則及教授ノ時  
割ニ遵ヒ日々教授スヘシ日 曜日及ヒ將  
来日本官負ヨリ達スル別段休日ノ外ハ  
日々教授ノ時間六時間ノ事

第三條

期限中ハ公然或ハ隱然高法ノ關係致ス  
間敷事

調所氏ハ左ノ條々ヲ約束ス

第一條

前文ニ揭示セル 氏職務ノ為ノ歳俸  
トシテ日本 金貨四千圓ト定メ月割ヲ  
以テ毎月二十五日相渡貨事  
但シ時ニ因リ各種ノ貨幣ヲ渡ス時ハ金  
貨ヲ元ニ立テ相渡シ可申事

雇中ハ 氏住居ノ為適宜ノ居室ヲ  
給與スト 蠶氏食料家具小使ノ給料等  
ハ自辦ノ事

第二條

雙方共都合、因リテ雇ヲ止メ又免職セント  
スルキハ三ヶ月前ノ報知ニテ廢約スルヲ得  
ヘシ然レテ本使ヨリ如此レテ此條約ヲ廢  
スル時ハ解約ノ日ヨリ向ニ三ヶ月間ニ相當セル  
給料ノミヲ 氏ハ相渡スヘシ又

氏死去ノ時ハ現ニ奉職セル時間ノ給

料ノミ可相渡矣事

第三條

滿期或ハ三ヶ月前ノ報知ニテ雇ヲ止ムル  
時ハ紐約府迄ノ歸程旅費トシテ日本  
金貨 氏ハ可相渡事

但シ札幌滞在中滿期相成矣時ハ  
因所ヨリ横濱或ハ東京迄ノ旅費ハ  
別段可相渡事

第四條

氏開拓使官負ノ命ニ因テ札幌府

外、旅行ノ筈ハ一已ノ旅費ハ相拂可申  
事

暑シ  
氏連綿日數三十日以上病氣  
ニ付職務ヲ行フ能ハサル片ハ右時間ハ定  
タル給料ノ三分一以上ハ不相渡暑シ同様  
ノ原因ヨリシテ不勤ノ日ヨリ連綿九十日  
ニ及フ片ハ此約書ヲ廢シ右六十日間ノ給料  
ハ三分一ノミ相渡スヘキ事

又 氏其職務ヲ怠ル故或ハ開拓使  
官員等ヨリ達スル命令ヲ違背スルカ  
又ハ政府ニ不満足ノ事ヲ引起ス時ハ直ニ  
其職ヲ免シ其日迄ノ給料ノミ相渡シ歸  
程ノ旅費ハ不相渡事

右之條々之ヲ證スル為メ雙方此  
書ニ手記調印

開拓幹事調印廣文

御使

甲寅二十一号

御使外國人増給ノ義伺

當使御使測量方頭取米人モルレ、エス、デイ  
来ル五月廿一日ニテ満期ノ處今又向壹ヶ年  
御使繼可相成都合ニ候然ルニ同人給料是迄  
壹ヶ年金貨五子圓ノ割ヲ以渡来候處御使以  
来職務勉勵一層測量ノ進歩相著レ候ニ付テ  
ハ来六月一日ヨリ壹ヶ年六子圓ニ増加致度  
候條御許容相成度此段相同候也

明治八年四月三十日

第三十号

御使